

〔名目抄 臨時<sup>ショウヂ</sup>讓位<sup>シヨウヰ</sup>又遜位、有三節會、

〔儀式五〕讓國

〔うつば物語 嵐峨の院〕御くにゆづりの事、この月になりぬるを、の給やうは、おなじ日春宮もさだめさせむとなんあめる、

〔つれぐ草上〕みくにゆづりの節會

〔名目抄 臨時<sup>ショウヂ</sup>受禪<sup>シユゼン</sup>者則有此稱矣、

〔代始和抄〕御讓位事

受禪と讓位とは、新舊の兩主にわたれる名なり、脱屣といふは、くつをぬぐといふ心なり、昔虞舜といふ聖人の、天位をむさぼる心のましまさるに依て、位をさる事をば蔽れたる屣をぬぐがごとく思給へり、やぶれたるくつをぬぎすつる事、露ばかりも惜き心なきにたどふる也、これは舊主につきたる詞也、

〔孟子四〕桃應問曰、舜爲天子、臯陶爲士、瞽瞍殺人、則如之何、孟子曰、執之而已矣、然則舜不禁歟、曰、夫舜惡得而禁之、夫有所受之也、然則舜如之何、曰、舜視棄天下猶棄敝屣也、竊負而逃、遵海濱而處、終身訢然樂而忘天下、

〔法性寺關白記〕保安四年正月廿八日壬午、此日天皇○鳥有讓位第一親王○崇德事、雅兼奉仰召陰陽頭賀茂光平朝臣令勸讓位日時、則持來直廬、余披見之、今月廿八日壬午時○云云、書様如尋常日時也返給仰奏聞可下上卿之由○略

〔寛元御讓位記〕寛元四年正月廿二日壬子、已刻參内、御讓位事可有議定云云、○中博陸以頭辨顯朝朝臣被問日次、陰陽頭在明朝臣候藏人所、此日次事密々前右府歸參申云、來廿七日丁巳、廿八日戊午、廿九日己未、爲吉日者、此由先可被奏歟、而各可定申之由殿下被仰之于臺盤所予申云、廿七八